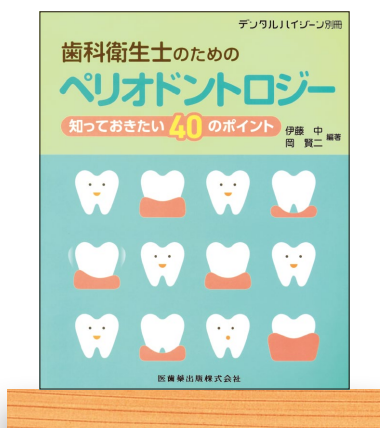


歯周治療のあらゆる場面で活用できる必携の一冊！



月刊「デンタルハイジーン」別冊
歯科衛生士のためのペリオドントロジー
 伊藤 中・岡 賢二 編著

AB判/126頁 定価：本体3,300円＋税
 医歯薬出版（2016年11月）

東京都小平市・河野歯科医院
 評・田村 恵（歯科衛生士）



新人歯科衛生士の皆さん、アシスタント業務も一通りできるようになって、そろそろ患者さんを担当させてもらえる時期なのではないでしょうか？ いよいよ楽しみにしていた歯科衛生士の醍醐味！ 歯周治療を行うわけですが、準備万端ですか？ 臨床に出てから再び教本を開くことがあるかと思いますが、歯周治療について疑問に思ったとき、いや疑問をもつ前に、本書を読むことをお勧めします。

本書は、歯周治療を行う歯科衛生士にとって最低限知っていないといけない最新の内容が、すっきりわかりやすくまとめてあります。

Chapter 1では、歯周病の基礎知識が、難しい内容もイラストを使って平易に解説されています。特に「疫学」というとこれまた難しそうですが、伊藤歯科クリニックのデータから歯周ポケットが何歳で発生し、いつ悪化するのか

など、歯科衛生士にとっての「そうそう、そこが知りたい！」がはっきり書かれていますし、だから「私たちはいつ何をしなければいけないのか」といった歯周治療の目標が明確になります。また、データを採用すること、分析することの重要性をあらためて認識させてくれます。

Chapter 2では、歯周病の病態を把握するためにはどんな資料を採用しないといけないか、それをどう診断するのが書かれています。私たち歯科衛生士の診査から歯科医師が診断するわけですから、いかに規格性のある口腔内写真、デンタルX線写真、正確なプロービングデータを用意しなければいけないのかを実感します。またプロービングポケットデプス、BOPの読み方についても、イラストと写真で“理解度アップ”間違いなしです。

ところで皆さんは、サブカルテといったものを記入していますか？ 私たちは患者さんを行動変容に導くために、その患者さんの生活背景を把握しなければいけません。その日の口腔内の状況だけでなく、患者さんの様子を細かく記載していきますが、それに対して著者である歯科医師の伊藤先生は一つひとつ目を通されています。そのようなところに、医院全体の患者さんに対する愛情を感じます。見習いたいところです！ Chapter 3では、このように歯科衛生士が毎日行う歯周治療の実際を、項目ごとに短くポイントを絞って書かれています。

最後のChapter 4では、見事な資料の症例がずらっと並んでいるだけで「お～」と感銘を受けるわけですが、それらの長期症例からはその患者さんに合わせたかわり方、家族で診ていくことの重要性、歯周組織の反応の仕方などさまざまなことを学ぶことができます。

ちょっと可愛い表紙の本書ですが、新人はもちろん、ベテランもあらためて頭の中をすっきりと整理できる一冊です！